



TOPICS

野田村支援活動（夏祭り）

令和5年度  
研究体験事業

令和6年度第1回  
研究体験事業

サイバー防犯  
ボランティア

能登・台湾  
募金活動

令和5年度  
活動報告会

令和5年度  
追悼行事

EVENT01

令和6年度第1回野田村支援交流活動（夏祭り）を実施

当センターは令和6年7月28日（日）に岩手県九戸郡野田村にて、今年度第1回目の野田村支援交流活動として野田村新町地区コミュニティセンターで開催された「新町地区夏祭り」への参加、運営補助を行いました。

当センターでは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から人的支援を開始し、毎年継続的な支援を行ってきました。

近年は、災害復興支援から交流活動に方針を移し、地域コミュニティ活性化のため、夏祭りでの盆踊りの実施補助など、村民の方々の暮らしとニーズに寄り添った活動を行っています。

今回も、弘前市民からの参加も募り、現地での活動を行いました。本活動へは、本学学生13名、一般市民14名、本学教職員1名の計28名が参加し、縁日コーナーや棒パンづくり、盆踊り大会の運営補助を実施したほか、本学からジャズ研究会が参加し演奏の披露も行いました。

当日は、野田村の子ども達や親子連れの方々が訪れ、盛り上がりを見せていました。

当センターでは、今後も野田村での様々な交流支援活動を実施していく予定です。





## EVENT02

# 令和5年度研究体験事業を実施

令和6年2月17日（土）に、地域の小学生を対象に、研究体験事業として「大学の研究ってなにしているの？」を実施しました。

当センターでは、弘前市、弘前市社会福祉協議会と協働で市内中学生を対象とした学習支援教室「あっぴる〜む」の実施や、市内の子ども食堂や学習支援活動へ学生ボランティアを派遣するなどの支援を継続的に行っています。

本事業はその一環であり、児童を対象として弘前大学の研究に触れてもらい、大学についての理解を広げるとともに大学の研究に触れることによる刺激を与えることを目的としています。当日、参加児童は、学生ボランティアとともにテーマの異なる2つの講義を体験しました。

まずはじめに、理工学研究科 鳥飼宏之 教授より「流れの科学を体験して学ぼう」をテーマとした講義が行われました。



子どもたちは回転しながら進む物体に進行方向に対しての揚力が働く「マグナス効果」について学びながら、紙コップ飛行機を飛ばす実験の中で「どうすればより遠くに飛ぶか」を考え試行錯誤していました。

次に、教育学部 佐藤剛 准教授による「歌って覚える英語の授業」をテーマとした講義では、子どもたちは佐藤准教授の「歌を歌うことでより英語を覚えやすくなる」という提案で、講義の中で英語の歌を歌いながら、英語特有の表現やリズムを学びました。

子どもたちは、実験等に熱心に取り組み、また教員からの問いかけに積極的に答え、大変楽しんでいる様子でした。また、学生ボランティアや教員と子どもたちが笑顔で会話する場面もあり、本事業は和やかな雰囲気で行われていきました。



## EVENT03

# 令和6年度第1回研究体験事業を実施

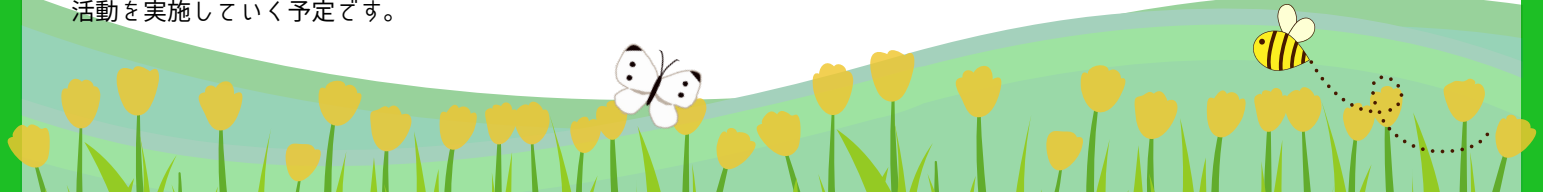
令和6年8月24日（土）に弘前大学構内において、小学生を対象に、令和6年度第1回研究体験事業「大学の研究ってなにしているの？」を実施しました。当日参加した小学生17名は、学生ボランティアとともにテーマの異なる2つの講義を体験しました。

はじめに、農学生命科学部 森井悠太 准教授より「弘前大学で生きものの野外観察をしてみよう」をテーマとした講義が行われ、弘前大学構内を実際に散策して昆虫や植物の野外観察を行いました。子どもたちは、講師から昆虫や植物の特性などを熱心に聞いたり、採取した昆虫を標本にして観察を行ったりするなど、生きものに対する理解を深めていました。

次に、人文社会科学部 上條信彦 教授より「本物の土器や石器に触れながら、大昔の人の知恵を考えてみよう」をテーマとした講義が行われ、大学構内の成田彦栄氏考古資料収蔵展示室で収蔵されているさまざまな土器を見学した後、実際に弘前市内から出土した土器の文様を写し取る“拓本”を体験しました。子どもたちは、実際に土器に触れ文様を写し取ることで、土器から研究の材料にしていく過程を学びました。

子どもたちは、本事業を通して、学生ボランティアや教員と笑顔で会話しながら、楽しそうに活動に取り組んでいる様子でした。

当センターでは、今後も地域の子どもの対象とした学習支援活動を実施していく予定です。





## EVENT04

# 令和6年度サイバー防犯ボランティアの委嘱

青森県警察本部と当センターは、令和6年7月9日(火)、弘前大学創立50周年記念会館2階会議室2にて、令和6年度『弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式』を開催しました。

当センターでは、平成29年度から青森県警察本部がサイバー犯罪対策の一環として実施しているサイバー防犯ボランティアへの学生派遣の協力を行っています。

交付式では、ボランティア学生11名のうち出席した4名の学生が委嘱状の交付を受けた後、参加学生を代表して教育学研究科2年 藤田桃さんが「安全・安心なサイバー空間の確保に貢献する」と決意表明を行いました。

次に、青森県警察本部生活安全部長の工藤昭幸氏から「県民がサイバー犯罪被害に遭わないための教育活動や広報活動への協力のほか、サイバーパトロールによる違法有害サイトの通報など積極的な活動を願いたい」旨の挨拶があり、当センターのセンター長を務める李永俊からは「小中高生と共に学びながら、より安全なサイバー空間づくりに貢献していただきたい」と期待と激励の言葉がありました。

委嘱を受けた学生は、任期である令和7年3月31日までの期間、ネット上の有害情報の通報や県内小中高校への講演活動などを通して、サイバー空間の安全を守るための取組みを行うこととしています。



## EVENT05

# 募金活動（能登半島地震・台湾東部沖地震）を実施

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、能登半島及び周辺地域に甚大な被害が及んだことを受け、当センターでは、文京町キャンパス内での対面での募金活動およびボランティアセンター前での募金箱設置による募金活動を行いました。

また、令和6年4月3日に発生した台湾東部沖地震においても現地で多くの被害が出たことから、同様の内容で募金活動を行いました。

皆様からはたくさんの募金をいただき、お預かりした募金はそれぞれ関係機関へお渡ししました。温かいご支援、誠にありがとうございました。



### ○令和6年能登半島地震災害支援募金

【期間】R6/1/15(月)～3/29(金)

【金額】64,061円

【入金先】赤い羽根共同募金

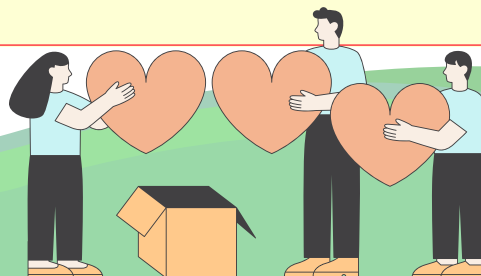
### ○令和6年台湾東部沖地震災害支援募金

【期間】R6/5/13(月)～7/31(水)

【金額】30,032円

【入金先】認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン

ご協力ありがとうございました





## EVENT06

## 令和5年度 ボランティアセンター活動報告会を開催

令和6年3月10日(日)に弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会を弘前市民文化交流館ホールおよびオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

本報告会は、近年頻発している自然災害に対する支援活動について考えることに加え、当センターの1年の活動を振り返り次年度以降の運営に役立てること、またこれらを通して弘前市民のボランティア活動への理解を深め、活動参加を推進していくことを目的として開催し、オンライン参加者9名を含む約16名の参加がありました。

報告会では、前半に令和6年能登半島地震に関する被害状況及び今後の支援に関する講演を行い、後半に当センターの今年度の活動報告を行いました。前半では、福知山公立大学地域経営学部准教授 大門大朗 氏より、今年1月に発生した能登半島地震被害状況、今後必要となる支援及び弘前市から出来る支援についての講演がありました。

講演の中では多くの写真や動画を交えての詳細な被害報告がされ、避難所開設や物資の分配、現地で活動する支援者の受け入れ等に関する課題の他、弘前の人ができる支援や注意点について述べられました。

後半では、当センターの学生ボランティアから今年度の活動報告が行われ、野田村支援交流活動や学習支援ボランティアについて、学生自身が感じたことなどが述べられました。その後、李センター長と大門氏の対談が行われ、行政・被災者・外部の人達の連携の難しさや、避難所の設置・運営等に関する課題について触れられました。

参加者からは「能登半島地震の実情などを詳しく学ぶことができ、とても参考になった」「活動している学生の皆さんの思いに元気をもらった」などの声が聞かれました。



## EVENT07

## 令和5年度第3回野田村支援交流活動（追悼行事）を実施

令和6年3月11日(月)に令和5年度第3回野田村支援交流活動（追悼行事）を実施しました。

今年度は、本学教員と学生6名、一般市民8名の計14名が共に野田村へ赴き、チーム北リアスが主催する「野田村3.11ミーティング」及び追悼行事へ参加しました。

始めに、野田村保健センター内復興展示室で「野田村3.11ミーティング」が行われ、これまでの野田村復興の経過を振り返るとともに令和6年能登半島地震の災害支援活動の情報共有を行い、今後の活動の展開について考えました。ミーティング後は、ほたてんぼうだいに設置された大津波記念碑の前で行われる東日本大震災追悼行事に参加しました。会場では、地震発生時刻の14時46分にサイレンが鳴り、参加者による黙とうが行われました。

参加者からは、「能登半島地震の被災地の様子や野田村の復興の過程を知ることができてよかった」「貴重な時間を過ごすことができた」などの感想が寄せられました。



## NOTICE

## ボランティアへの参加、募集等について

## ・ボランティア参加希望の方

弘前市民の方・・・ひろさきボランティアセンター  
TEL : 0172-38-5595

弘前大学関係者・・・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター  
E-mail : huvvc@hirosaki-u.ac.jp

## ・学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)



HP



X



Facebook



Instagram



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター (HUVVC) 平日午前10時～午後3時  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 TEL : 0172-39-3268 FAX : 0172-34-5251  
E-mail : huvvc@hirosaki-u.ac.jp